

きりんのあくび療育 —感覚統合と運動療育—

きりんのあくびでは“感覚統合療法”という理論を元に運動に特化した活動を実施しています。でも感覚統合ってなんだろうな…と感じる方もたくさん！

感覚とは

- ・五感（聴覚👂・視覚👁️・嗅覚👃・味覚👄・触覚👋）
- ・無意識に身体を動かす感覚（固有感覚👉・前提感覚👉） があります。

上記にあげた感覚が土台となって段階を経て子どもたちは発達していきます。しかし、発達に凸凹があったり発達がゆっくりな子どもたちの中には、この土台となる感覚への入力に対して過敏や鈍麻さがあり、感覚の土台が崩れやすいという特徴があります。（図①）土台が崩れやすいということは、その土台の上にある発達段階の学習がうまく積み上がらず遅れが生じてしまったり、目立ってしまったりします。

感覚統合療法は、その土台をまず平らに近づけるようにたくさんの感覚を入力できる環境を作って行きましょうというアプローチ方法のことです。（図②）

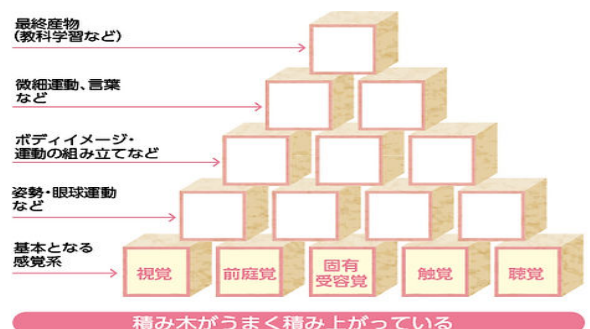
子どもたち一人一人のやりたいことを理解して、その子にあった遊び(感覚入力)を提供することで満足感や達成感等の刺激を脳へ伝達しています。特に子どもにとって『たのしい♪』は、学習をはじめとした取り組みへの前向きな向き合い方を引き出すうえで必要不可欠な要素です。ただ遊んでいるだけに見える行動であっても、関わり方一つで遊びは学びの宝庫になります。

きりんのあくびには、身体を動かすうえで特に重要となる無意識に身体を動かす“固有感覚（ぎゅっと力を入れたり、曲げたり伸ばしたりする感覚）”“前提感覚（バランスをつかさどる感覚）”への入力、楽しみながらできるように大型遊具を導入しています。

子どもたちの「楽しい😊♪」は発達の宝物です。楽しさは脳にとって最良の栄養素となります。そのため楽しいと感じる状態のとき最も発達が促されるようです。楽しい遊びの中から様々な感覚に働きかけるうちに、あらゆる感覚に慣れ変化していく成長をたくさん見ることが出来ればと思っています。



図①



図②